

北九州地区小児科医会会報

講演会・カンファランスの等のご案内

北九州地区小児科医会例会のご案内

第574回北九州地区小児科医会例会

日時：2022年2月10日（木）19:00～20:30

一般講演：睡眠時の異常行動とてんかん

演者：国立病院機構 小倉医療センター 緒方 怜奈 先生

特別講演：小児てんかん ―診断と治療の現在地―

演者：広島大学病院 小児科 講師 石川 暢恒 先生

※オンライン視聴をご希望の際は、二次元コード又は下記メールよりご芳名のご登録をお願い致します。

onoo.tomoaki.u7@daiichisankyo.co.jp

担当:第一三共（株）大野宛



第575回北九州地区小児科医会例会

現在調整中です

その他講演会などのご案内

第443回小倉小児科医会臨床懇話会（WEB開催）

日時：2022年2月24日（木）19:00～20:00

演題1：中枢性尿崩症の5歳男児例～多飲多尿の鑑別法～

演者：九州労災病院 小児科 多久 葵 先生

演題2：小児内分泌疾患これからの課題

演者：九州労災病院 小児科 河田 泰定 先生

令和3年度園児保健研修会

日時：2022年2月28日（月）19:00～

場所：市立商工貿易会館 2階「多目的ホール」

演題：「SDQについて」（仮）

演者：国立病院機構小倉医療センター 小児科 緒方 怜奈先生

※ SDQ・・・Strength and Difficulties Questionnaire：子どもの強さと困難さアンケート

産業医科大学セミナー等のご案内

現地とWeb配信のハイブリッドで開催いたします。

Webでの参加をご希望の先生は、

j-syoni@mbox.med.uoeh-u.ac.jpまでご連絡願います。

後日、参加方法の詳細をお知らせいたします。

産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス

日時：2022年2月21日（月）19:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：遠くて近いFabry病

演者：産業医科大学小児科 斉宮 真理 先生、平川 潤 先生、五十嵐 亮太 先生

産業医科大学小児科セミナー

日時：2022年2月24日（木）18:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：総合療育センター外来における療育方針決定までの流れとその後の療育内容について
～カンガルー外来とこあら入所の御案内～

演者：北九州市立総合療育センター
小児科 高野 志保 先生、藤田 弘之 先生

第13回八幡地区病院小児科合同カンファレンス

今回はJCHO九州病院小児科の高橋保彦先生に北九州での小児医療のご経験をご講演いただきます。

日時：2022年3月14日（月）19:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：新生児医療から小児在宅医療へ
-北九州市での35年の経験から-

演者：JCHO九州病院小児科 高橋 保彦 先生

産業医科大学小児科セミナー

日時：2022年3月24日（木）18:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：こどもの心電図のみかた

演者：産業医科大学 小児科 清水 大輔 先生

内分泌学的検査

今月は内分泌学検査の注意点について概説します。診断のための精査を行う場合と、診断確定後の定期的な検査の場合があるかと思いますが、いずれも他項目の併用や複数回の算定に注意が必要です。()内に保険点数を示します。

・ 甲状腺：甲状腺ホルモンの生体での作用は、遊離系の free T3(fT3)とfree T4(fT4)濃度によって決定し、甲状腺ホルモンの総量と遊離系ホルモン量とは概ね相関して増減することから、甲状腺ホルモンの測定は、遊離系ホルモン量あるいは甲状腺ホルモン総量測定のいずれかによることが望ましいとされています。そのため、原則として、T3(102点)とfT3(127点)およびT4(111点)とfT4(127点)の併施は認められておりません。また、甲状腺機能が安定した状態では、TSH(104点)が敏感であることにより、TSHに加えてfT3、T3、fT4、T4のうちいずれか一つの検査で十分と考えられます。中でも甲状腺機能低下症について、診療開始月以外ではfT3とfT4を併施することは保険診療上は必要性が低いとして査定の対象となっています。ただし、乳幼児に限っては甲状腺ホルモンが知的発達に関係すること、T3とT4が比例しない例があることなどから、例外的に併施を認めています。また、甲状腺機能亢進症の経過観察におけるサイログロブリン(133点)は不要と考えられており、通常認められません。甲状腺機能低下症(橋本病)の診断時には、抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(=抗TPO抗体、146点)、抗甲状腺マイクロゾーム抗体(=マイクロゾームテスト、半定量37点)、抗サイログロブリン抗体(144点)が用いられますが、抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体と抗甲状腺マイクロゾーム抗体の併算定はできません(主たるもののみ算定)。いずれも経過や病状により必要な場合は、症状詳記等で説明ください。なお、「甲状腺機能異常」なる主病名で、鑑別に亢進症と低下症の傷病名が混在して併記され、自己抗体を含めて多種類の請求が行われる例などはきわめて不適切と思われる。

・ 低身長：ソマトメジンC(IGF-1、218点)は成長ホルモン(GH、111点)の作用により主に肝臓で産生されるホルモンで、インスリン様成長因子結合蛋白3型(IGFBP-3、218点)と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定されます。なお、IGFBP-3は、成長ホルモン分泌不全症(GHD)の診断と治療開始時の適応判定のために実施した場合に算定できます。

・ 糖尿病：HbA1C(49点)は、血糖検査がなければ査定の対象となります。生化学的検査の包括部分で血糖値の上昇を認めた際、次に行われるべき検査とされています。糖尿病疑いで連月のHbA1c算定に対して、最近厳しい目が向けられています。インスリン(IRI、106点)は、糖尿病の診断には必須ではないため(糖尿病ガイドライン)、「糖尿病疑い」では認められません。膵島関連自己抗体のGAD抗体(134点)とIA-2抗体(213点)は、自己免疫が関与する1型糖尿病の診断に有用なため「1型糖尿病(疑い)」

として検査を算定します。この場合、糖尿病自体は確定診断でなければなりませんので、2型糖尿病の患者さんに精査を行う際は注意が必要です。血中Cペプチド(CPR、111点)と尿中Cペプチドは、糖尿病での残存膵β細胞機能を評価する検査であり、1型でも2型でも糖尿病診断確定後に算定可能となります。しかし、インスリン(IRI)とC-ペプチド(CPR)との併施は、インスリン異常症等の場合を除いて原則として認められていません。なお、1型糖尿病でインスリン投与中の場合はIRIは算定できませんのでご注意ください。

・ ビタミンD欠乏症：25-ヒドロキシビタミンD(400点)は、平成28年8月1日から保険適応可能となりましたが、CLIA法により、ビタミンD欠乏性くる病若しくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時又はそれらの疾患に対する治療中に測定した場合にのみ算定できると明記されています。1.25(OH)2D3は、医科点数表(青本)に請求できる基礎疾患が明記されており、それらが併記されていない時には算定できません。オステオカルシン(OC、161点)の測定は、青本では限定的な適応(手術を前提など)が記載されていて認められていません。これら骨代謝異常に行われる検査の算定に関しては「医科点数表の解釈(通称;青本)」の該当部分を熟読してください。

・ 内分泌疾患等における定期検査(2016年1月の保険診療メモから一部再掲)：多項目の検査がセットになっているために一部がB項査定「回数が多い(間隔が短い)」されることがあります。疾病や病期によって、また検査項目によって認められる間隔は異なりますが、短期間に再検が必要な場合には、「○○の急性増悪」、「再燃(再発)の疑い」などの病名や、必要性が分かるコメントを記載してください。内分泌疾患などの多くは小児慢性特定疾患の対象で公費負担のため患者家族からのクレームも少ないようですが、多くの検査は比較的高額です(項目数で包括化されている検査もありますが、減点されると医療機関に経済的な負担を掛けています)。通常は2か月か3か月に1回。クリーゼなどのコメントがあれば連月でも認める場合があります。

検査の複数項目算定が可能かどうかの情報源として、社会保険診療報酬支払基金のHP内に、「審査情報提供事例(医科)」の項に検査53事例の解説が掲載されていますので、ご参照ください。

<https://www.ssk.or.jp/shinryohoshu/teikyojirei/ika/index.html>

(福岡県小児科審査委員連絡会)

協議事項・報告事項

1) 2022年7月2日に福岡県小児科医会総会があり、今回は北九州地区小児科医会が担当となります。講演していただく演者に関して検討を行いました。

2) 2022年からの新役員が決定しました。下記のとおりです。(敬称略)

- 会長 吉田 雄司
- 副会長 古賀 一吉
日高 靖文
- 監事 大原 延年
渡辺 恭子
- 相談役 三宅 巧
- 理事
門司 古賀 靖敏
小倉 中島 抄由里、友納 優子
八幡 西野 裕、富田 一郎
戸畑 梶原 康巨
若松 宮川 隆之
遠賀中間 白川 嘉継
京築豊前 松島 卓哉
産業医大 福田 智文
- 幹事
庶務 佐藤 東
会計 荒木 俊介
学術 津田 恵次郎、藤野 時彦

3) 今月の新型コロナウイルス感染症への対応について情報交換・協議はありません。

委員会報告

1. 学術委員会報告：白川嘉継
2022年

3月 調整中

4月 調整中

5月 協和キリン株式会社
大阪母子医療センター骨発育疾患研究部門部
長道上敏美先生

6月 ツムラと調整中

7月 産業医科大学例会
同月に福岡県小児科医会総会開催があるため検討中

8月 休会

9月 ワクチンフォーラム

その他、COVID19のため、委員会は行われておりません。